

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立熊谷農業高等学校 )

目指す学校像	命を育み知を磨く学舎づくり (農業各分野の担い手・技術者と、地域を担う人材の育成)
重点目標	1 基本的な生活習慣の確立 2 基礎学力の定着を図る学習指導の充実 3 希望進路実現を図る指導の充実 4 開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	継続的な指導により頭髪・服装違反、遅刻者は減少している。引き続き、基本的な生活習慣を確立し、主体的に高校生活を送らせるために、徹底した継続指導を行う。そして、社会的秩序を保ち、マナーや他者への配慮を考えた行動できる生徒を育成する。	1 時間厳守の徹底と自己管理能力の向上 2 特別な支援を必要とする生徒への対応	1-1 登校遅刻、授業遅刻を減らすため、遅刻入室カードを利用し、授業規律の確保とSHR実施を徹底する。 1-2 正しい服装での学校生活(特に女子のスカート丈の改善)と私物管理を徹底させる。服装指導、立哨指導等を行う。 2 特別な支援を必要とする生徒の情報を共有し組織づくり等、的確な対応をする。	1-1 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者の減少が見られたか。 1-2 服装・頭髪違反が減り、教室等の私物管理ができたか。 2 生徒に対する情報の共有がなされ、特別な指導を必要とする生徒に的確な対応ができたか。	1-1 継続的な指導と遅刻カードの導入により、遅刻指導を受ける生徒は、減少した。基本的な生活習慣の確立に向けて、生徒指導部による巡回指導と全職員での校門指導を併せて実施している。授業遅刻が若干増加傾向にある。 1-2 生徒指導件数は14件と増加した。 2 6月から月1回スクールカウンセラーを招聘。延べ12人が相談を受けている。特別な支援が必要な生徒については、担任を中心に職員間での情報共有がなされ的確に対応している。生徒指導課の支援を受けカウンセリングを10回増やして対応した。	B A
2	欠点保有者が増加傾向にあり、追認で欠点を解消できない生徒がみられる。そのため、基礎学力の定着と学力向上を目指した学習指導を継続的に実施する。 また、資格取得をとって目的意識を持たせ、学習習慣の定着を図る。	1 成績不振者の減少と学習習慣の定着にむけた指導の充実 2 授業の工夫・改善	1-1 授業規律の徹底を図り、生徒表彰、資格取得を通して学習意欲を向上させる。 1-2 各学習単元の重点ポイントを理解させ、個別指導により追考査の合格率を上げる。 2-1 公開授業週間、授業評価を充実させ、授業力向上を図る。 2-2 農業クラブ活動をはじめ、生徒会行事、部活動をより活性化させる。	1-1 学年末の成績優秀者や、資格取得に取り組む生徒が昨年と比べて増加したか。 1-2 欠点保有者の減少。追考査・追認試験の合格率が向上したか。 2-1 「生徒による授業アンケート」の結果、授業への理解度が70%を超えているか。 2-2 学校の活性化に向けて、生徒の各種行事への参加が増加したか。	1-1 2学期の成績優良者は、46名であった。 1-2 欠点保有者は昨年度2学期と比較すると35名減少、欠点の約1割に減少。追認試験合格。追認考査の未受検者が増加。 2-1 授業公開週間を実施し、授業評価を充実させている。 2-2 農業クラブ関東大会へ意見発表2名、プロジェクト発表3チームが優秀賞。全国大会(農業鑑定競技)で5名が優秀賞。家畜審査競技牛・豚の部県大会最優秀、全国和牛能力共進会出場、弓道部(女子団体)：県大会4位、東日本大会出場、書道部：学芸書道全国展「優秀団体賞」を受賞。未来を担う私たちの主張大会最優秀。インラインスケート全国3位、世界大会出場。	B A
3	大学への進学希望者は減少傾向にあるが、多くが第1志望の進学先に合格している。 自己理解を深め、希望する進路実現に向けた行動力を身につけさせるため、進路指導体制の充実を図る。	1 進路活動の充実と進路保証	1-1 進路ガイダンスを充実させ、継続系統的進路指導の導入やネット求人、進路のしおりを積極的に活用する。 1-2 各学年に応じて、生徒が主体的に取り組むための指導や、面接練習・小論文指導等の充実を図る。 1-3 地域関係事業所と連携し、県事業の「実践的職業教育グローバル事業」等を実施する。 1-4 資料をデータ管理し、希望職種・業種ごとに検索できるシステムの利用。	1-1 進学・就職希望者決定率が向上したか。 1-2 進学希望者と就職希望者の進路実現ができたか。 1-3 県事業を計画的に実施し、農業の専門性を生かした希望進路の実現ができたか。 1-4 システム構築と利用ができた。	1-1 進学率が52.8%(昨年度比約8.0%増)と増加した。 1-2 進学・就職希望者に対する、面接練習・小論文指導等、継続した丁寧な指導を実施している。国立・私立ともに順調に合格。 1-3 県事業の『高校生環境学習講座』に7名の生徒が参加した。1年生全員の就農体験事業では96軒の農家の協力を得られた。266名(98.9%)が参加、無事終了。 また、生産力育成分野におけるスペシャリストの招聘、「プロフェッショナルに学ぶ」事業、緑の再生に取り組む事業等、専門分野における学びの機会を確保した。特に果樹としては2回実施。 1-4 利用状況としては、システムの調整が遅れている。	A
4	報道機関を活用して熊農祭、学校説明会など本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信している。 県事業を活用した特色のある教育活動を展開し、中学生や保護者をはじめとする地域社会と連携を深め、開かれた学校づくりをさらに推進する。	1 広報活動のさらなる充実 2 生徒募集活動の充実と募集定員の確保	1-1 各種フェスタ等に積極的に参加。各行事・部活動等の活躍を発信する。 1-2 中央実習棟内の販売所やアイスクリームプラントを活用し、農業の6次産業化事業を推進させ特色ある教育活動を展開し地域に貢献する。 2-1 学校説明会、一日体験入学、中学校訪問等を計画的・効果的に行う。 2-2 学校評議員会、学校評価懇話会を各学期に1回、年3回開催する。	1-1 ネットコモンズを活用し、HPで生徒の活躍をPRできたか。 1-2 保護者や地域住民の来校者数が増えたか。 2-1 募集定員を確保。最終倍率の状況が1.0倍以上になったか。 2-2 学校評議員会、学校評価懇話会における意見を、学校改善に活用することができたか。	1-1 各種フェスタに出展、ふかや花フェスタにて「深谷市長最優秀賞」受賞、国際バラとガーデニングショウでは6年連続の優秀賞。また、「頑張る熊農生」発行の充実により、生徒の活躍をPRできている。メール配信で情報提供。 1-2 日本赤十字献血センターと連携『くまのうあひす』を配布。2-1 学校説明会(2回)に生徒353名参加。11/15・28にミニ学校説明会を実施。また、体験入学(2回)には生徒491名、保護者173名が参加。 2-2 学校評議員会及び学校評価懇話会が順調に開催できている。	B B

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○女子のスカート丈の指導については、効果が上がっていると思う。ただし、一部の保護者にはスカート丈の指導の意味が伝わっていない。今後、保護者への理解を深め生徒へしっかりと伝える必要がある。スラックスの利用も保護者へ周知する必要がある。	○遅刻指導・スマートフォンの利用には、もう少し明確なペナルティがあっても良い。
○「欠点であること」に対する生徒の意識の低下は危惧するところである。日頃から、学習意欲と成果についてしっかりと指導していく必要がある。	○日頃の家庭学習を定着させるためには、教員個々ではなく、組織的な取組を続ける必要がある。
○専門高校として、「資格取得」を学習意欲の向上に結びつけることは、基礎学力の向上のためにも大変効果的であると考えている。さらに資格取得を奨励していただきたい。	○進路決定の充実に向けて、丁寧な指導が実を結んだことは喜ばしいことである。今後とも「高い志」を持って意欲的に挑戦する姿勢を育成していただきたい。
○将来に向けて職業観を持たせることは重要である。そのために、校外農場実習は効果的である。今後も実施したほうがよい。	○教員が3年間を通して生徒をどのように育てていくのか、方向性を共有し組織的に取り組む必要がある。
○メール配信による情報提供を積極的に実施する必要がある。また、アンケートなども回収し易くなり、職員の負担軽減に繋がる。是非、メールの活用してください。その際に、個人情報取扱いに注意が必要。	